

博物館型研究統合の1事例

令和7年度企画展示 「野村正治郎とジャポニスムの時代 —着物を世界に広げた人物— について

国立歴史民俗博物館

澤田和人

Kimono Ambassador:
Nomura Shijirō and the Age of Japonisme

企画展示

野村正治郎と ジャポニスムの 時代

S. NOMURA



着物を
世界に
広げた
人物

2025.10.28(火) — 12.21(日)

会場 = 国立歴史民俗博物館 企画展示室A・B

開館時間 = 9:30-16:30(入館は16:00まで)

休館日 = 月曜日(休日にあたる場合は開館し、翌日休館)

その他館内メンテナンスのため休館する場合があります。

入館料 = 一般 1,000円(800円) 大学生 500円(400円)

※()内は20名以上の団体料金 ※高校生以下入館無料 ※観覧票は、くらしの博物館もご購入いただけます。

【同時開催】第3展示室特展「野村正治郎の後継者一膳男の活動」

2025年10月28日(火) - 12月21日(日)

主催 = 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国立歴史民俗博物館
National Museum of Japanese History

〒285-8502 千葉県佐倉市緑の内117

問い合わせ = ハロ-ダイヤル 050-5541-8600

ウェブサイト = <https://www.rekihaku.ac.jp>

最新の情報はホームページをご覧ください。



博物館型研究統合

博物館機能を存分に発揮する独自の研究スタイル

くわしくは歴博のウェブサイト
サイトで



野村正治郎
(1880 - 1943)

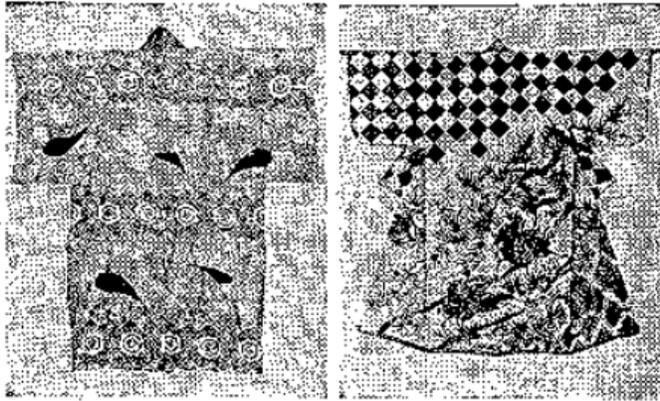




野村正治郎
(1880 - 1943)



数奇の小袖 喜びの涙



▲江戸時代の麻中丁半襦袢（左） ▲江戸時代の麻中丁半襦袢（右）

遺族、執念の保存

榎山、江戸の約600点 四億円で国が買う

【上野】国史館蔵書「榎山正治郎の遺族が、江戸時代の麻中丁半襦袢（左）と、江戸時代の麻中丁半襦袢（右）を、約600点、四億円で国が買う。榎山正治郎の遺族が、江戸時代の麻中丁半襦袢（左）と、江戸時代の麻中丁半襦袢（右）を、約600点、四億円で国が買う。

「野村コレクション」里帰り



衣裳野風 黒緋緑地花弁模様縮子小袖 白緋緑地物産柄縮子花染小袖

このコレクションは、戦前京都の古美術商であった野村正治郎氏が、主として大正から昭和初期にかけて収集したもので、桃山、江戸時代の染織遺品五百九十五点に及ぶ膨大なものである。その内訳は、衣裳野風（二曲）百隻、宮廷衣裳八十種、小袖類七十六種、帯十六条、袋物五十七点、箱、髪飾等二百六十六点であるが、特に小袖類等を衣箱にかけた衫にして群嵐に

本年度は衣裳野風百隻と小袖類七十六種を購入、残りは来年度に購入する予定となっており、当分の間は東京国立博物館において保管し保存活用が図られるが、将来は現在計画中の国立歴史民俗博物館に展示することが考慮されている。

本館神楽
黒丸種
菊社の松子
長若屋の修正鬼金の鼓籠
（高知）
（長崎）
（香川）
（分県）

野村正治郎コレクション 文化庁で購入

東京国立博物館において、十月十六日から十一月二十五日まで開催されている特別展「日本の染織」にその一部が展示されている「野村正治郎コレクション」を、このたび文化庁が本年度と来年度の二年にわたり買い取る事となった。

この我が国染織史研究上重要なコレクションは、事情あつて現所有者榎山正治郎氏の米国永住を機に十数年前に米国に渡り、その後その一部がメトロポリタン美術館等に数回出品された以外は公開される機会もなく、日本において保存活用されるよう各方面から強く望まれていたものである。

このたび、野村氏の好意により、文化庁で一括買い取ることが決まり、「日本の染織」展開催に当たつて来日された榎山正治郎氏、故江マサコ野村夫妻と文化庁との間で去る十月十六日売買契約が交わされた。

海外流出からの里帰り

里帰り品 1983年	
頭物	237
小袖類	155
時代小袖雛形屏風	100
袋物・懐中物	53
帯	16
化粧道具	6
打敷	1
小袖類裂	1
能装束	1
筥	1
計	571

京都残存品 1987年	
小袖類	142
袖形装幀小袖類裂	100
在銘小袖類裂	35
時代小袖雛形屏風用小袖類裂	28
袱紗	3
羽織類	2
打敷	1
帯	1
小袖類裂	1
能装束	1
水引幕	1
鎧下着	1
計	316

京都残存品 2 2019年	
小袖類裂	107
時代小袖雛形屏風残余裂	79
小袖類裂（時代小袖雛形屏風用小袖類裂ツレ）	16
打敷	13
裂	10
小袖類裂（袖形装幀裂ツレ）	6
時代小袖雛形屏風用部品	3
帯	1
袈裟	1
小袖類	1
襦袢類	1
袋物・懐中物	1
風呂敷	1
鎧直垂	1
計	241

その他	
小袖類裂貼装屏風	5
時代小袖雛形屏風残余裂	4
小袖類	2
小袖類裂	1
時代小袖雛形屏風	1
計	13

歴博所蔵

野村正治郎衣裳コレクションと関連資料

合計1141件

この一群が
出発点

美術商であり、
近世の着物のコレクター

◆啓て支那、印度、歐米
地方を股にかけ貿易
家として活動した氏
は、今や優美な古代
婦人衣裳の収集に憂
身を費してゐる

楽道珍 (9) 衣裳... 婦人の時代物

頃國の美人を「風俗畫家の垂涎」寛文以降のもの「惜しや外人の手に「ザツと千種」

京都 野村正治郎氏

◆そこには目も覚めるばかりの古代衣裳、その昔は傾國の美人を包んで長袖舞ひ、髪懸つて優麗細閑を、扱にしたものであらうと思像されるもの十幾重ね、ズラリと衣桁に掛け並べた前に、坐り込んだ主人、咳一咳してさて徐ろに語るらう

◆これが天保朝法度時代の振袖、あれが金唐皮高、和衣湖段織、何れも珍らしい品で、此の間開籠しました江戸時代總括小袖の陳列會へも出品いたしまし

を備ふに足る位のものしか残存しておませぬが、夫れでも割合に多く見出さ

江、伊勢地方といつた順序で、その他には餘り見當らないやうです

◆衣裳以外にも婦人の服装に關係したものは何に限らず収集して見ましたが申々思ふやうに坐りませぬが、古代製など加へると千種以上にも上るでせう

◆啓て支那、印度、歐米地方を股にかけ貿易家として活動した氏は、今や優美な古代婦人衣裳の収集に憂身を費してゐる

一寫眞は野村氏と婦人の古代衣裳



『大阪朝日新聞』 1917年10月 24日 朝刊



発信者側の視点で
ジャポニスムを捉える

第1章：美術商としての活動—対外交流
西洋人を相手にした販売戦略を見ていき、西洋人と交流を深めて着物の美を国外に伝えていくさまを辿る。

第2章：コレクターとしての活動—国内交流

当時の社会の中で日本文化としての着物の重要性を啓発する役割を果たしていった様子を繙いていく。

日本	埼玉	遠山記念館	
	東京	丸紅ギャラリー	
		共立女子大学博物館	
		根津美術館	
		文化学園服飾博物館	
		東京都江戸東京博物館	
	神奈川	女子美術大学美術館	
	愛知	J. フロント リテイリング史料館	
		名古屋市博物館	
	京都	京都工芸繊維大学美術工芸資料館	
		歴彩館	
		木村染匠株式会社	
		友禅史会	
		ぎをん齋藤	
		染司よしおか	
		文化庁	
		京都国立博物館	
		徳正寺	
		古代友禅株式会社	
		京都市立芸術大学芸術資料館	
		兵庫	関西学院大学博物館
			姫路市書写の里・美術工芸館
	奈良	奈良県立美術館	
	福岡	福岡市博物館	
		九州国立博物館	

アメリカ	アリゾナ	タルアセン・ウエスト
	カリフォルニア	サンフランシスコ・アジア美術館
		ロサンゼルス・カウンティ美術館
	イリノイ	シカゴ美術館
	ハワイ	ホノルル美術館
	マサチューセッツ	ボストン美術館
		アーサー M. サックラー美術館 (ハーバード大学美術館群)
	ミシガン	デトロイト美術館
	ミズーリ	ネルソン・アトキンス美術館
	ネブラスカ	ジョスリン美術館
	ニューヨーク	クーパー・ヒューイット国立デザイン博物館
		メトロポリタン美術館
	ペンシルベニア	ハバフォード大学図書館
	ロードアイランド	ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン附属美術館
		ロードアイランド歴史協会
ワシントン	ワシントン州立大学図書館	

イギリス	ロンドン	ヴィクトリア&アルバート博物館
------	------	-----------------

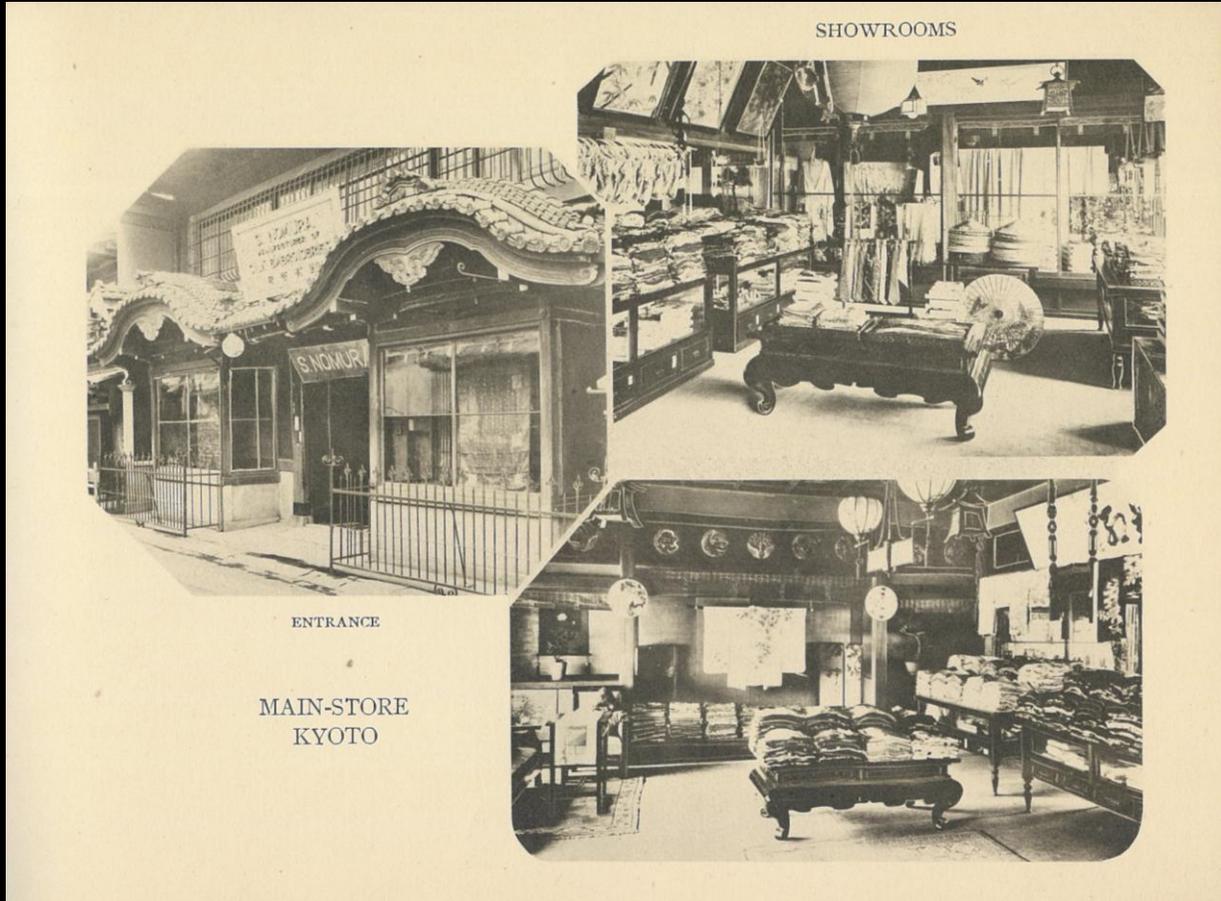
中華民国	嘉義	国立故宮博物院南部院区
------	----	-------------

西洋人の
顧客獲得
に成功

野村正治郎に関する資料を所蔵する機関等

国内：25

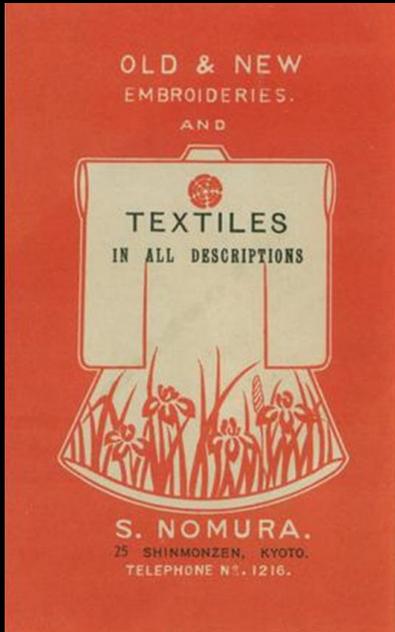
海外：18



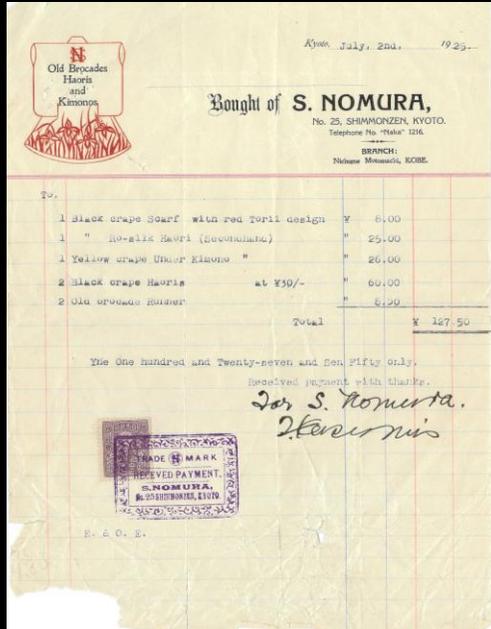
Catalogue S. Nomura 1925年頃



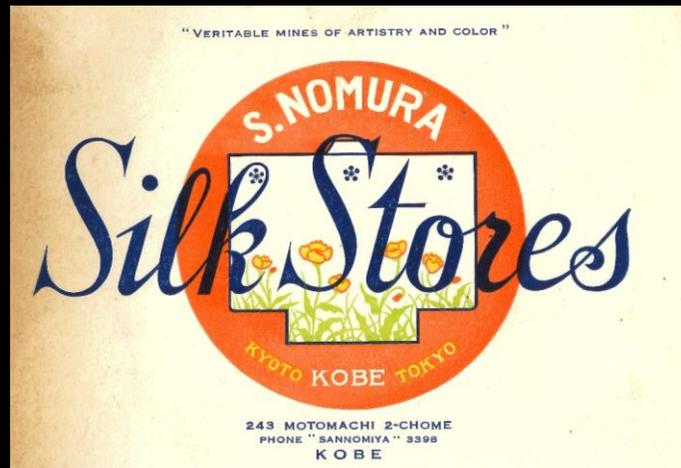
薩摩藩邸黒門→鹿鳴館正門→華族会館正門
岡本定吉『住宅建築写真集成』第1輯、建築工芸協会、
1918年



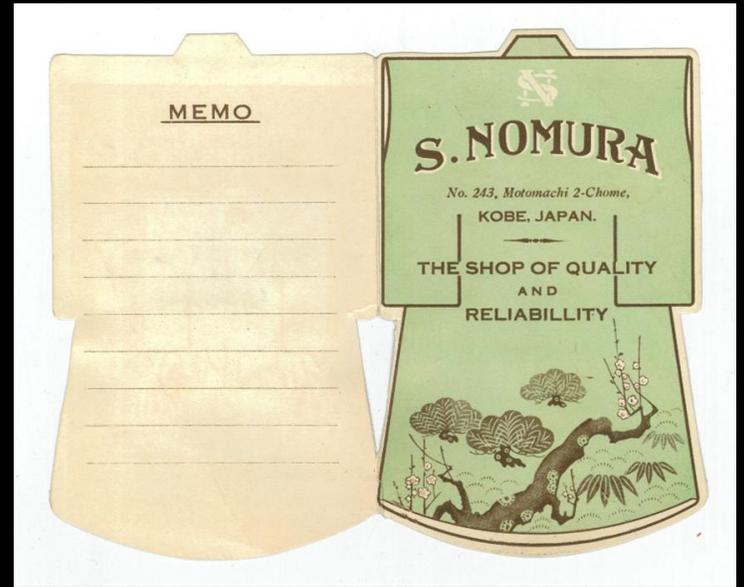
Yokohama and Vicinity (グランドホテル、1908年頃) 個人



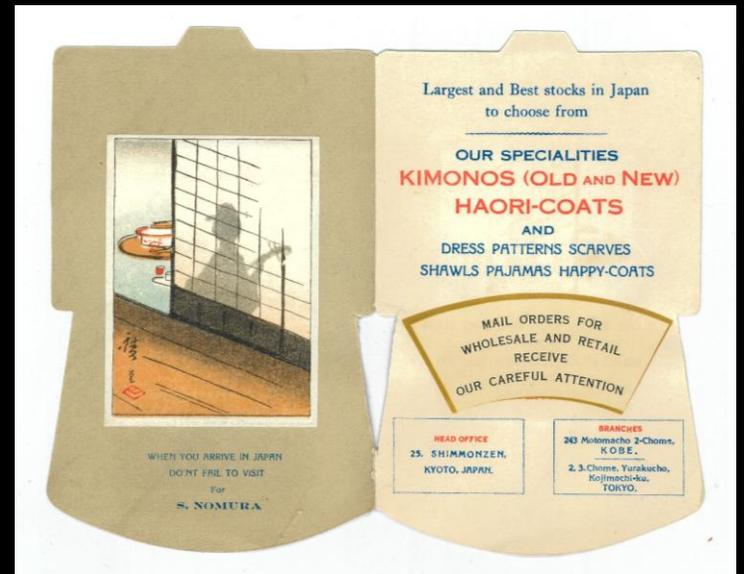
領収書 野村商店 1925年 個人



野村商店 神戸支店ビジネスカード 1937年 個人



野村商店 神戸支店ビジネスカード 1928年 個人



西洋人が期待する
「日本らしさ」の演出
が巧み



『続小袖と振袖』（芸艸堂、1932～33年）所収



『続小袖と振袖』所収



文化庁の購入から漏れたもの
1989年に直系の子孫が寄贈

2001年に西陣織物商
の丸池から購入

メトロポリタン美術館

コレクターとしての性格を
強める前に販売



江戸

ヨゼフ・マルクヴァルダーが1913年
に購入、2011年に収蔵
ロサンゼルス・カウンティ—美術館

コレクターとしての性格を
強めた後に販売



明治

ルーシー・トゥルマン・アルドリッチが
1923年に購入、1935年に寄贈
ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン
附属美術館



大正

マイケル・パレル卿が1923年に
購入、1968年に寄贈
ヴィクトリア&アルバート博物館

『小袖と振袖』（芸艸堂、
1927～28年）所収

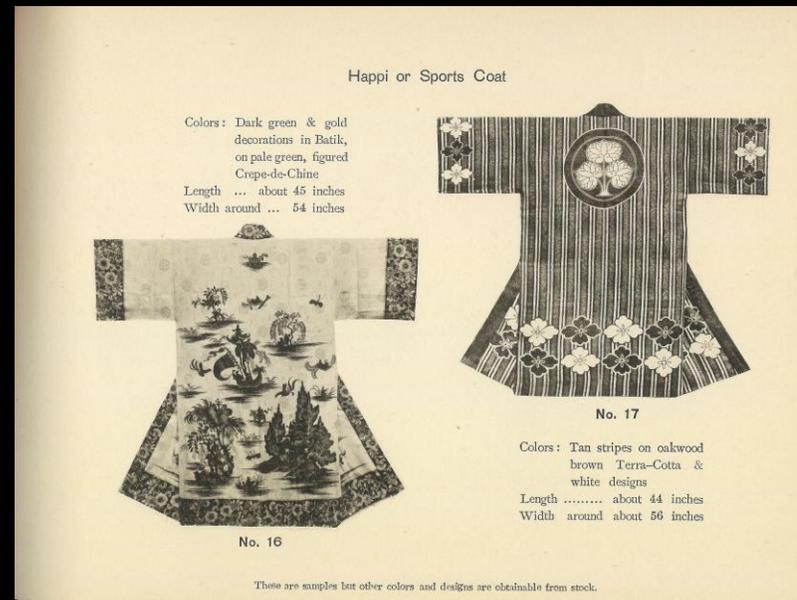
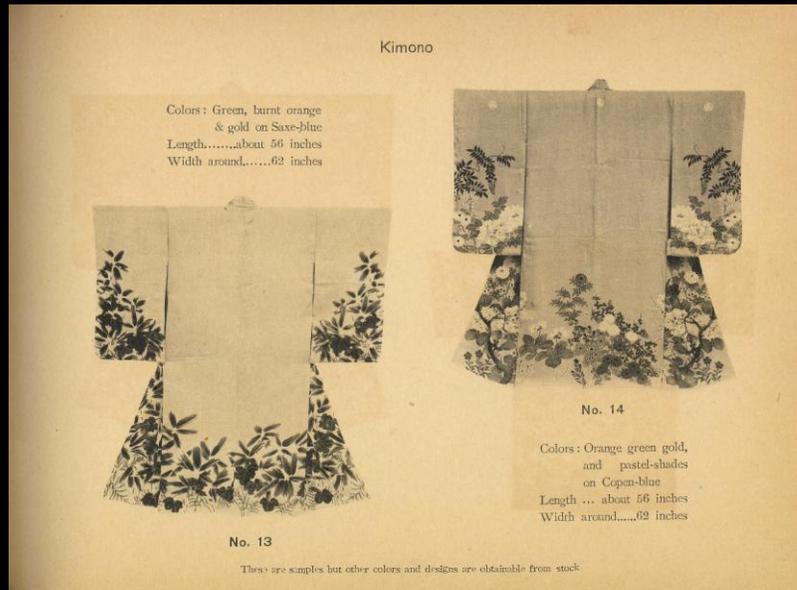


唯一の例外

ジャパン・ソサエティやアメリカ
日本文化センターの活動に
貢献。コロンビア大学と緊密
に連携する日本研究協会の
会長を務める。

ルイ・ヴァーノン・ルドゥーが
1934～35年頃に購入、
2013年に寄贈

アーサー M. サックラー美術館
(ハーバード大学美術館群)



日本人向けと同等の「本物」の着物を販売

私は嘗て或る外人が神戸の埠頭に於て日本への第一歩をした時、何はともあれ、野村氏の蒐集を見たいといった事実を聞いたことがある。洵（まこと）に野村氏の衣裳の蒐集は一個人の蒐集としては餘りに大規模で、我国の名物の一であり、その蒐集館は優に日本名勝の觀が深い。否、世界広しと雖、氏の如く熾烈な日本衣裳の欣求者（ごんぐしゃ）もなく、又氏の如く多数の蒐蔵家もなく、更に又氏の如く之を欧米に向って宣伝される人もなからう。此の点に於て確かに氏は日本衣裳王と称するも敢て過褒（かほう）ではないであらう。

野村正治郎編『続誰が袖百種』（芸艸堂、1930年）に寄稿した江馬務の跋文

然し氏の偉大なるはその他に理由がある。氏の此の趣味、此の拳は一に国家を思ひ、染織芸術を愛する至誠至情より発してゐることで、永遠に染織史上珍重すべき品あれば、外国に流出するを憂ひ、千万金を惜しまずして購入され、之を徒に自家薬籠中のものとなさず、その研究者に対しては常に開放展示して斯界の発達に寄与せらるゝことは、如何に涙ぐましいことではないか。

野村正治郎編『続誰が袖百種』（芸艸堂、1930年）に寄稿した江馬務の跋文



様々な方法で世界に
着物を広める

「本物」を
販売する

レクチャー
する

図版集を
公刊する

コレクション
を見せる

Henry Albert Phillips. *Meet the Japanese*, Philadelphia & London: J. B. Lippincott Company, 1932



光

商品が売れる

品質の保証



コレクション



影

海外に流出する

収集の動機

